



# Global Corporate Overview

## 会社概要

Better Health, Brighter Future

2024年4月更新



# 重要な注意事項



本注意事項において、「プレゼンテーション (presentation) 」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社 (以下、「**武田薬品**」) によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション (それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます) は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、(投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく) 情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で (受領者に対して提供される追加情報と共に) 提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour) 」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあります。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあります。

本資料に記載されている製品名は、武田薬品または各所有者の商標または登録商標です。

## 将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets) 」、「計画する (plans) 」、「信じる (believes) 」、「望む (hopes) 」、「継続する (continues) 」、「期待する (expects) 」、「めざす (aims) 」、「意図する (intends) 」、「確実にする (ensures) 」、「だろう (will) 」、「かもしれない (may) 」、「すべきであろう (should) 」、「であろう (would) 」、「することができた (could) 」、「予想される (anticipates) 」、「見込む (estimates) 」、「予想する (projects) 」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の業績は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の業績とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、世界的な医療制度改革を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品および既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機が、当社が事業を行う国の政府を含む当社とその顧客及び供給業者又は当社事業の他の側面に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI (買収後の統合活動) の時期及び影響、武田薬品の事業にとっての非中核事業を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、当社のウェブサイト (<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/>) 又は [www.sec.gov](http://www.sec.gov) において閲覧可能な米国証券取引委員会に提出した Form 20-F による最新の年次報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果又はその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

## 医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

私たちは、患者さんに寄り添うことを常に第一に考えています。

そのうえで、人々との信頼関係の構築、社会的評価の向上、事業の発展という順番での日々の行動へのこだわりが、タケダを際立たせていると信じています。

クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長CEO

患者さんを支えて  
**242年間**



# タケダについて

私たちのパーパス（存在意義）は、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献することです。  
サイエンスや技術が進化しても、揺るぎない価値観に基づいた私たちの志は変わりません。

人々の暮らしを豊かにする医薬品をお届けし、社会に貢献するとともに、従業員が理想的な働き方を実現できる環境づくりに努めています。



## 私たちの存在意義

世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する

## 私たちが目指す未来

すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、いのちを育む地球のために。  
私たちはこの約束を胸に、革新的な医薬品を創出し続けます。

## 私たちの価値観： タケダイズム

タケダイズムとは、まず**誠実**であること。それは**公正・正直・不屈**の精神で支えられた、私たちが大切にしている価値観です。  
私たちはこれを道しるべとしながら、「1. 患者さんに寄り添い (**Patient**)  
2. 人々と信頼関係を築き (**Trust**) 3. 社会的評価を向上させ (**Reputation**)  
4. 事業を発展させる (**Business**)」を日々の行動指針とします。

## 私たちの約束

### PATIENT

すべての患者さんのために

• 私たちは、倫理観をもってサイエンスの革新性を追求します。そして、人々の暮らしを豊かにする医薬品の創出に取り組みます。

• 私たちの医薬品を、より多くの人々に迅速にお届けします。

### PEOPLE

ともに働く  
仲間のために

• 私たちは、理想的な働き方を実現します。

### PLANET

いのちを育む  
地球のために

• 私たちは、自然環境の保全に寄与します。

## データとデジタルの力で、イノベーションを起こします

• データを活用して導き出された成果をもとに、もっとも信頼されるバイオ医薬品企業として、これからも変革し続けます。



# グローバルなバイオ医薬品企業



グローバル本社

**東京 日本橋**

グローバルハブ

米国 マサチューセッツ州  
ボストン地区 ケンブリッジ

**約30** 臨床試験段階にある  
新規医薬品候補

グローバル拠点

**約80** の国・地域

**25+** 製造拠点

**3** 研究拠点

**200+** 積極的な  
パートナーシップ

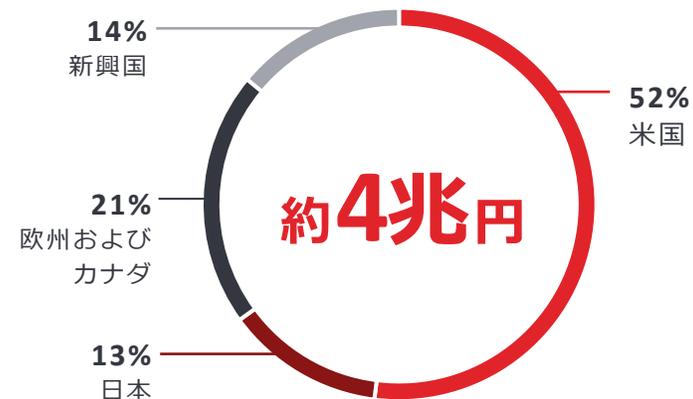
革新的なアイデアを実現するために

**39**カ国

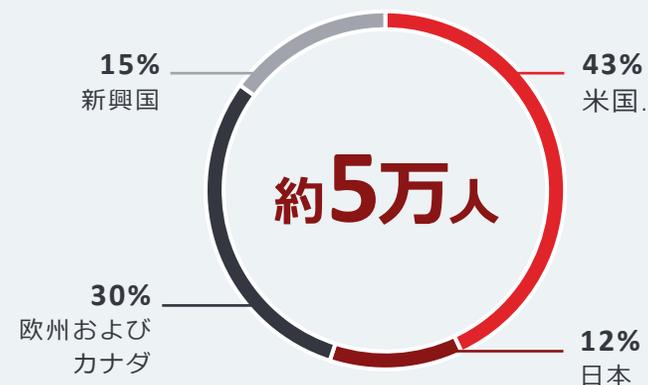
および4地域での  
TOP EMPLOYER® 認定

2023年6月時点（一部データを除く）

2022年度売上収益



2023年3月31日時点



創業

**1781**年

大阪 道修町

従業員

# タケダ・エグゼクティブ・チーム



クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO



天川 晶子  
コーポレート戦略  
オフィサー  
CEOチーフ オブ スタッフ



アンドリュー・ブランブ  
取締役、  
リサーチ&開発  
プレジデント



宮柱 明日香  
ジャパンファーマ ビジネス  
ユニット プレジデント



エレイン・シャノン  
グローバル クオリティ  
オフィサー



ガブリエレ・リッチ  
チーフ データ&テクノロジー  
オフィサー



ジャイルズ・  
プラットフォード  
PDTビジネスユニット  
プレジデント

国籍

9カ国

年齢

30-60代

女性比率

53%



ジュリー・キム  
U.S. ビジネスユニット  
プレジデント



ローレン・デュプレイ  
チーフ HR オフィサー



マルチェロ・アゴスティ  
グローバル  
ビジネス開発  
オフィサー



古田 未来乃  
チーフ フィナンシャル  
オフィサー



ムワナ・ルゴゴ  
チーフ エシックス&  
コンプライアンス  
オフィサー



ラモナ・セケイラ  
グローバル ポートフォリオ  
ディビジョン  
プレジデント



大藪 貴子  
チーフ グローバル コーポレート  
アフェアーズ&サステナビリティ  
オフィサー



テレサ・ビテッティ  
グローバルオンコロジー  
ビジネスユニット  
プレジデント



トーマス・ウォスニフスキー  
グローバル  
マニュファクチャリング&  
サプライ オフィサー



中川 仁敬  
グローバル ジェネラル  
カウンセル

# 私たちのイノベーション

私たちは、多様な次世代医薬品のパイプラインを構築しています。自社での研究開発に加え、200以上のパートナーとの連携によりあらゆるイノベーションを活用し、サイエンスの革新性を追求します。データやデジタル技術への投資により、患者さんの生活の質の向上に貢献し、サイエンスの手法にイノベーションを取り込むことを目指しています。



## 消化器系・炎症性疾患

- ・ 炎症性腸疾患
- ・ セリアック病
- ・ 皮膚科疾患・リウマチ性疾患
- ・ 肝疾患
- ・ 神経性胃炎

## 希少疾患

### 希少出血性疾患

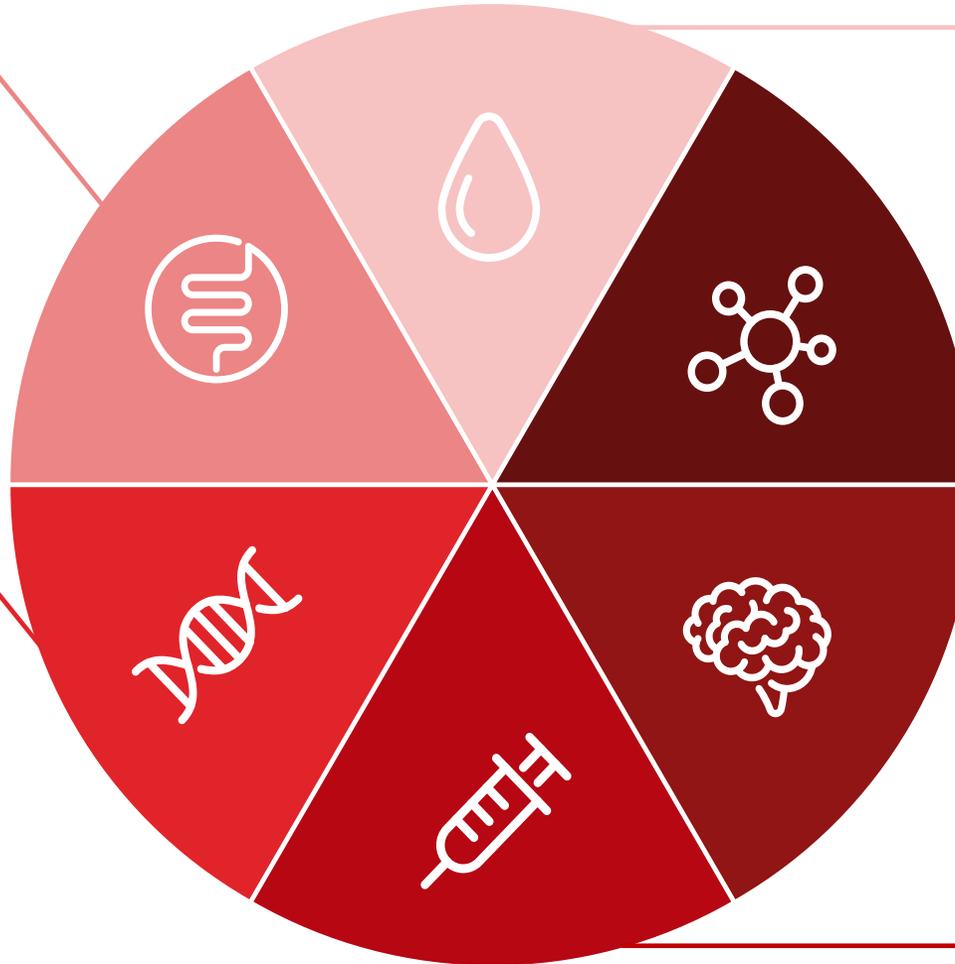
- ・ 血友病
- ・ フォン・ヴィレブランド病
- ・ 血栓性血小板減少性紫斑病

### 希少免疫疾患

- ・ 遺伝性血管性浮腫
- ・ 免疫不全症
- ・ 希少自己免疫疾患
- ・ 低アルブミン血症および血液量減少症
- ・ 重症先天性プロテインC欠損症
- ・ プロトロンビン欠乏症
- ・  $\alpha$ 1-アンチトリプシン欠損症

### 希少代謝疾患

- ・ ハンター症候群
- ・ ファブリー病
- ・ ゴーシェ病
- ・ 移植後のサイトメガロウイルス (CMV) 感染症



## 血漿分画製剤

- ・ 免疫不全疾患
- ・ 神経免疫疾患
- ・ 血液疾患
- ・ 呼吸器疾患
- ・ 特殊免疫グロブリン・救命救急医療
- ・ その他の希少疾患・慢性疾患

## オンコロジー

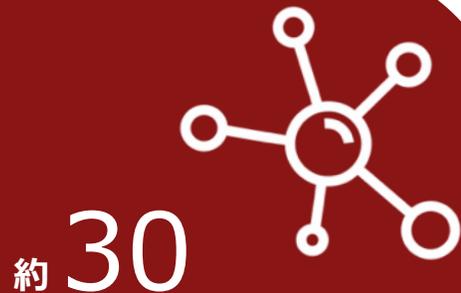
- ・ 固形腫瘍領域
- ・ 血液腫瘍領域

## ニューロサイエンス

- ・ 希少てんかん症候群
- ・ 睡眠覚醒障害
- ・ パーキンソン病

## ワクチン<sup>1</sup>

- ・ デング熱
- ・ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)
- ・ ジカウイルス感染症
- ・ パンデミックインフルエンザ



臨床試験段階にある  
新規医薬品候補

新規作用機序品目で構成する  
強固なパイプライン

約 50%

パイプラインのうち、少なくとも  
1つの適応症/いずれかの地域で  
オーファンドラッグ（希少疾病  
用医薬品）指定の可能性がある  
ものが占めています。

低分子化合物

75%

- ・ 生物学的製剤
- ・ 細胞療法
- ・ その他モダリティ
- ・ ペプチド・オリゴヌクレオチド

多様なモダリティ  
（治療手法）

患者さんの視点を活用し、適切な  
標的を適切なモダリティとマッチ  
させ、厳格な実験を行うことで、  
変革をもたらす可能性のある治療を  
加速させます。



200+

積極的なパートナーシップ

パイプラインの60%以上をパート  
ナーシッププログラムが占め、  
サイエンスとイノベーションの  
最前線で研究開発を進めています。  
スタートアップ企業、バイオテック  
企業、アカデミア等、さまざまな  
外部パートナーと連携し革新的な  
アイデアを共有しています。



約 6,333 億円

2022年度  
研究開発費\*

多数の品目の上市が見込まれる後期  
開発プログラムに加え、開発初期に  
ある重要なプログラムが複数進行し  
ており、長期的かつ持続的な成長機  
会をもたらします。

\*2022年度実績を除き、2023年6月時点

# サステナビリティへの アプローチ

私たちの存在意義（パーパス）、私たちの目指す未来（ビジョン）、そしてそのビジョンをどのように実現するか（バリュー）を結び付けることによって、変わることのない価値観とともに持続可能な事業成長を目指しています。

バイオ医薬品企業としての強みと能力を活かし、患者さん、株主、そして社会にとって長期的な価値を創造するとともに、ともに働く仲間や地域社会、いのちを育む地球のために持続的で前向きな変化を起こします。



# タケダ サステナビリティ フレームワーク



## PATIENT

すべての患者さんのために



## PEOPLE

ともに働く仲間のために



## PLANET

いのちを育む地球のために

人々の暮らしを豊かにする革新的な  
医薬品の創出に取り組みます

患者さんや社会にとって有意義な  
価値を提供します

私たちの医薬品を、迅速かつ公平に  
世界中の人々にお届けします

生涯学習を支援し、より良き人材を  
育成します

多様性、公平性、包括性(DE&I)を  
推進します

従業員が心身ともに健康な職場環境を  
創ります

温室効果ガス排出量「ネットゼロ」を  
達成します

自然環境の保全に寄与します

環境に配慮した製品を設計します

データとデジタルの力で、イノベーションを起こします

持続的なビジネスの成長

# 私たちのデータ・デジタル&テクノロジーへの取り組みは、イノベーションを加速し、持続的にプラスの効果をもたらします



## PATIENT

すべての患者さんのために

患者さんにパーソナライズされた体験を提供し、治療効果を最適化。

データを改善し、患者さんへのアクセスを容易にし、臨床試験における多様性を向上。

予測分析（AIとジェネレーティブAI）を活用し、将来的な伝染病の発生を予測、臨床試験および新薬開発をサポートし、サプライチェーンを強化。

## PEOPLE

ともに働く仲間のために

デジタル思考と効率的なソリューションの文化を醸成するために、未来の従業員のスキルアップを図る。

従業員がいつでも、どこでも、どのように働いても、一貫性を持ち、直感的で、包括的かつ協力的な仕事ができるようテクノロジー環境を提供。

## PLANET

いのちを育む地球のために

データセンターの統合、クラウドの効率化、新しいデバイスの持続可能な調達と同時に技術的なリサイクルを通じてグリーンテック戦略を追求。

デジタル効率化や自動化による持続可能なデータ収集戦略を策定。

環境影響に関する分析と報告を発展。



# 医薬品へのアクセス向上をめざして



医薬品アクセスプログラムでは、世界の医療サービスが十分でない地域で、重篤な疾患をもつ患者さんなど、多くの患者さんの生活が向上するような取り組みを続けています。



## ヘルスシステム強化プログラム

低中所得国や医療システムが発展途上にある国の人々に医薬品をお届けするため、多様なパートナーと協力し、持続可能な医療体制の整備に注力しています。



## 革新的な費用負担プログラム

「革新的な患者さんの医療費負担および慈善アクセスプログラム」は、革新的な医薬品に対するアクセスを向上させるプログラムで、**世界44以上の国と地域**で実施されています。

このプログラムにより、**5,000人以上**の患者さんの医療費負担の問題解決をサポートしました。

2023年3月時点



## 信頼を築く

タケダは、Access to Medicine Index において業界をリードする順位を獲得しました。Access to Medicine Index ランキングにおいて7位の評価を受け、評価された大手製薬会社20社のうち、上位10社にランクインしました。

[医薬品アクセスプログレスレポート2022の詳細を見る \(TAKEDA.COM\)](https://www.takeda.com/access-to-medicine)

# 理想的な働き方を実現する

私たちは、以下の4つの分野に注力することで、従業員に理想的な職場環境を生み出しています。

- **人材**  
優秀な人材を採用・育成し、エンゲージメントの高い従業員とともにビジョンを実現
- **心身の健康（ウェルビーイング）**  
心身ともに健康で、仕事への意欲を高め、創造性や生産性を向上させるための取り組みの推進
- **多様性、公平性、包括性（DE&I）**  
多様性を尊重し育み、誰もが公正に自らの能力を最大限に発揮できる機会を得られる場の提供
- **生涯学習への投資**  
従業員の成長意欲を育み、生涯学習を通じて社内外で活躍できる能力を開発できる環境づくり



## 世界的な評価

タケダの職場環境や従業員への待遇は世界中で評価を受けています。



## タケダの職場環境

私たちは、従業員にとって理想的な職場環境の構築に注力しています。ウェルビーイング（心身の健康）とパフォーマンスを向上させ、柔軟性があり、対面でのコミュニケーションの価値を実感できるような環境づくりを目指しています。

# いのちを育む地球のための、グローバル全体でのアクション



2020年に  
バリューチェーン全体で  
カーボンニュートラルを達成  
その状態を維持



2024年までに  
サプライヤーの67%が  
科学的根拠に基づいた  
削減目標を設定



2025年度までに  
医薬品の2次・3次包装に使われる紙  
やファイバーボードの50%をリサイ  
クル素材または森林認証素材に変更



2025までに  
淡水の取水量を  
5%削減

2022

## 再生可能エネルギー100%

日本

大阪、光、成田の各拠点では、再生可能エネルギー100%の電力購入に取り組み、温室効果ガス排出量の年間30%削減を目指しています。



## 天然ガスから グリーンスチームへの転換

米国マサチューセッツ州 ケンブリッジ

転換によって2箇所の施設における運用時の温室効果ガス排出量を40~50%削減しています。



## 太陽光発電設備の導入

米国カリフォルニア州  
ロサンゼルス

年間の電力購入量を約833MWh削減し、温室効果ガス排出量においても、約280トン削減しています。



## ポジティブ・エネルギー・ビル

シンガポール

シンガポール政府のゼロ・エネルギー・ビル政策に沿った、ビル全体の使用量を上回る電力を創出する初のポジティブ・エネルギー・ビル。



# いのちを育む地球のための、グローバル全体でのアクション



2030までに  
廃棄物の100%を  
埋め立て以外に転換



2035までに  
自社事業からの温室効果  
ガス排出量ゼロを達成

2040年までにバリュー  
チェーン全体での温室  
効果ガス排出量ネット  
ゼロを達成



## 淡水の消費量を60%削減

ベルギー・レシーヌ

製薬業界初の大規模な廃水リサイクル施設です。



## 廃棄物の埋立地化からの脱却

2022年度には、廃棄物の80%以上が埋立地以外に用途に使用されました。



## サプライヤーとの連携

「Energize」プログラム

製薬企業19社による初めての取り組み。サプライヤーによる再生可能エネルギー利用を促進します。



## 医薬品の開発から 持続可能性へ配慮

製薬業界初のプロセスにより、研究開発に「グリーンケミストリー」原則を導入し、製造工程における水の利用量を削減しました。



# 持続可能な未来に向けた戦略的な取り組み



グローバルCSRを通じて、疾病予防の進歩を早め、医療従事者がいきいきと働き、想定外の事態に対処できる強固な医療システムを構築することで、質の高い医療が提供され疾患の負担が軽減される、そんな健康的で輝かしい未来を築くことを目指しています。

## グローバルCSRプログラム (2016年度から2022年度まで)

85

国・地域で活動



毎年、従業員による投票でプログラムを決定

242億円

合計寄付金額

24

プログラム

## グローバルCSRパートナー

多国籍でアカデミックな団体と協働





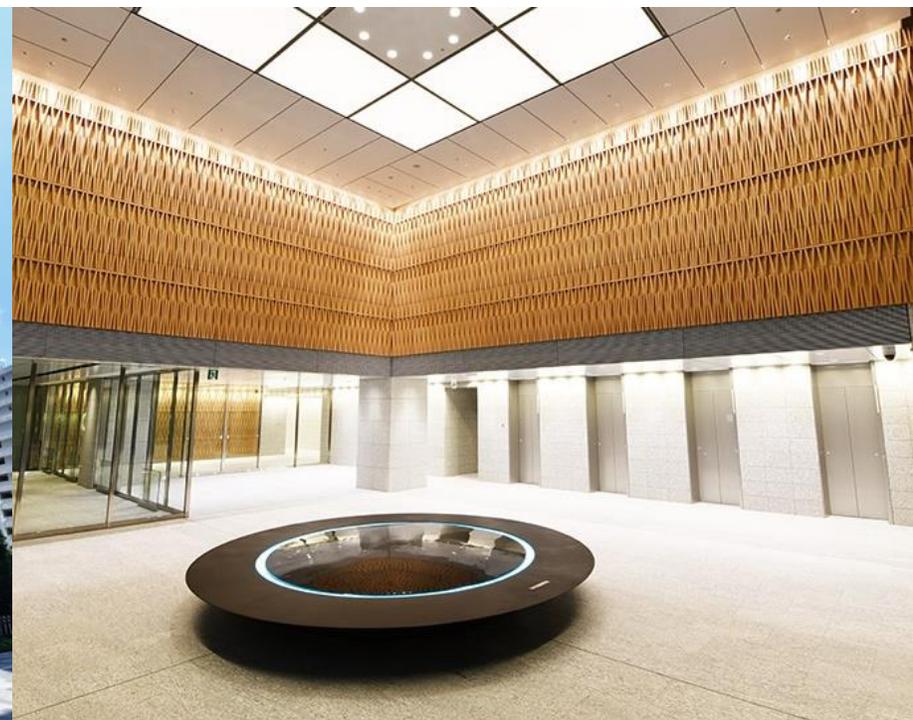
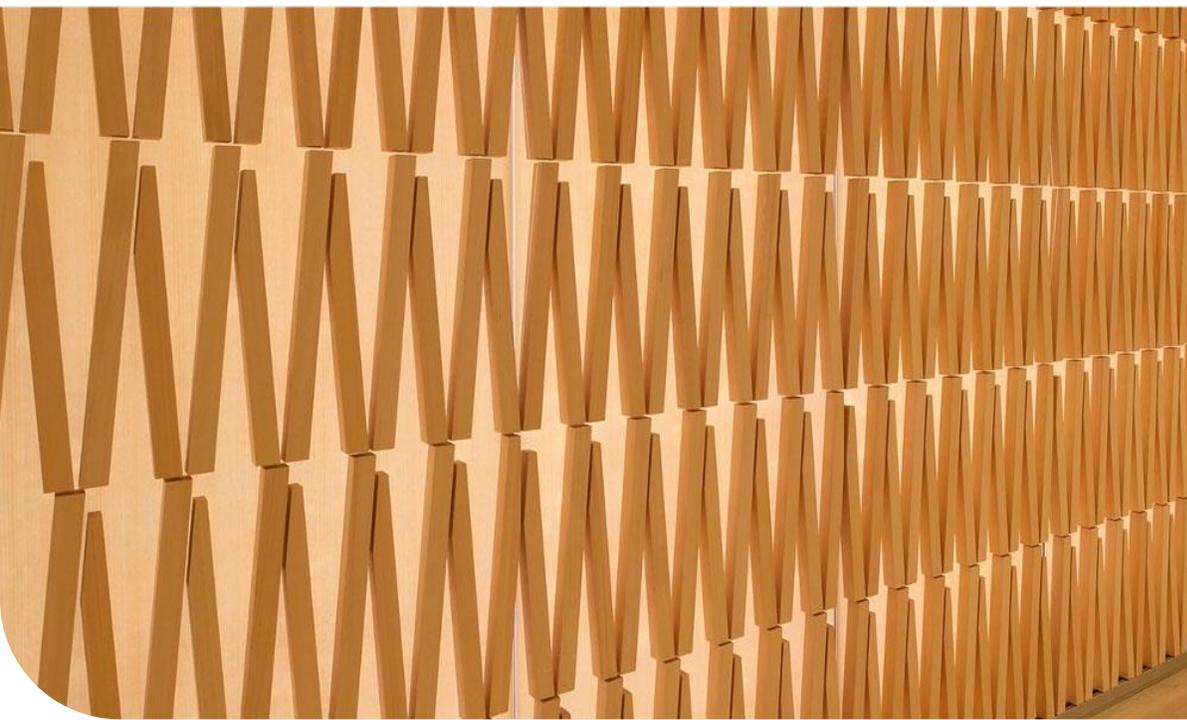
## 武田グローバル本社の空間デザインについて

クリエイティブディレクター佐藤可土和氏による空間デザインコンセプトは、人間の「life force : 生きる力」。このコンセプトは、8つの漢字を用いたアートワークにあらわされ、ビルのいたるところに配置されています。

発行月: 2024年4月  
発行元: グローバルコーポレート アフェアーズ



詳細はウェブサイトをご覧ください  
[www.takeda.com/jp](http://www.takeda.com/jp)





# Appendix

# タケダの歴史 1781年～1979年



FOR BUSINESS

**1781**

**COMPANY FOUNDED**

初代近江屋長兵衛が大阪で薬種仲買商を始め、高品質の薬を提供

**1895**

**PRODUCTION**

自社工場で製薬事業を開始

**1915**

**OSAKA FACTORY**

大阪工場の前身である武田製薬所を開設

**1943**

**COMPANY NAME**

社名を現在の武田薬品工業に変更

**1949**

**INITIAL PUBLIC OFFERING**

株式を上場  
株式公開企業に

**1951**

**INTERNATIONAL BUSINESS**

北中米、アジアを皮切りに海外市場に本格参入

**1871**

**INTERNATIONAL TRADE**

洋薬（西洋医薬品）の輸入を開始

**1914**

**PROPRIETARY RESEARCH**

研究部を設立  
自社で研究活動を開始

**1940**

**"NORI" PRINCIPLES**

タケダイズムの礎となる「規（のり）」を制定

**1946**

**HIKARI FACTORY**

山口県 光工場を開設

**1950年代**

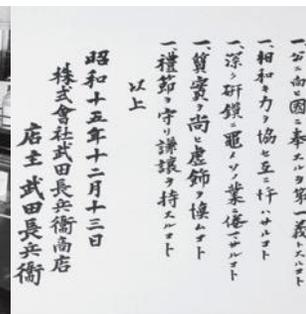
**PANVITAN® & ALINAMIN®**

日本初の総合ビタミン剤およびビタミンB1誘導体製剤を発売

**1961**

**COMPANY LOGO**

輸出向け商標として「抱き山タケダ」を使用開始



FOR SOCIETY

**1933**

**TAKEDA GARDEN**

「京都薬用植物園」を開設し世界各地の薬用・有用植物を収集・活用

**1960**

**SHOSHISHA FOUNDATION**

優秀な学生を支援し将来の社会に貢献できるよう、育英事業を目的とする「尚志社」を設立

**1963**

**TAKEDA SCIENCE FOUNDATION**

有望な研究および科学技術の助成振興のため「武田科学振興財団」を設立

# タケダの歴史 1980年～現在



FOR BUSINESS

## 1980年代～90年代

### EXPANSION OF INTERNATIONAL BUSINESS

4つの国際戦略製品  
「リュープロレリン」、  
「ランソプラゾール」、  
「カンデサルタン」、  
「ピオグリタゾン」により  
グローバル事業の拡大が加速

## 2008

### MILLENNIUM PHARMACEUTICALS

米国のバイオベンチャー  
であるミレニアム社を買  
収し、がん領域を強化

## 2011

### NYCOMED ACQUISITION

新興国に強い販路を持つ  
ナイコメッド社を統合し、  
事業基盤を70カ国以上に拡大

## 2014

### VEDOLIZUMAB

潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬  
「ベドリズマブ」を米国および  
欧州で発売

## 2015

### IXAZOMIB

多発性骨髄腫治療薬  
「イキサゾミブ」米国で発売

## 2018

### NEW YORK STOCK EXCHANGE LISTING

ニューヨーク株式市場への上場により、  
ニューヨーク証券取引所と東京証券取引所の  
双方に上場されている唯一の医薬品企業に  
**SHONAN HEALTH INNOVATION PARK**  
湘南にヘルスイノベーションを加速する  
iPark をグランドオープン

### TAKEDA GLOBAL HEADQUARTERS

武田グローバル本社をグランドオープン、  
多様性に富む従業員がオープンにつながり、  
ともにイノベーションに取り組む拠点へ

## 2019

### SHIRE ACQUISITION

シャイアー社の買収により、  
事業拠点は約80の国・地域に  
拡大し、グローバルな研究  
開発型バイオ医薬品の  
リーディングカンパニーへ



FOR SOCIETY

## 2009

### UNITED NATIONS GLOBAL COMPACT

「国連グローバル・  
コンパクト」に参加

## 2010

### TAKEDA INITIATIVE

アフリカの保健医療人材の育  
成を支援する  
「タケダ・イニシアティブ」  
を開始

## 2016

### ACCESS TO MEDICINES

医薬品アクセスに関する取り組みを開発国を  
中心に開始

### GLOBAL CSR PROGRAM

疾病予防に重点を置いた支援活動「グローバ  
ルCSRプログラム」を開始。

## 2019

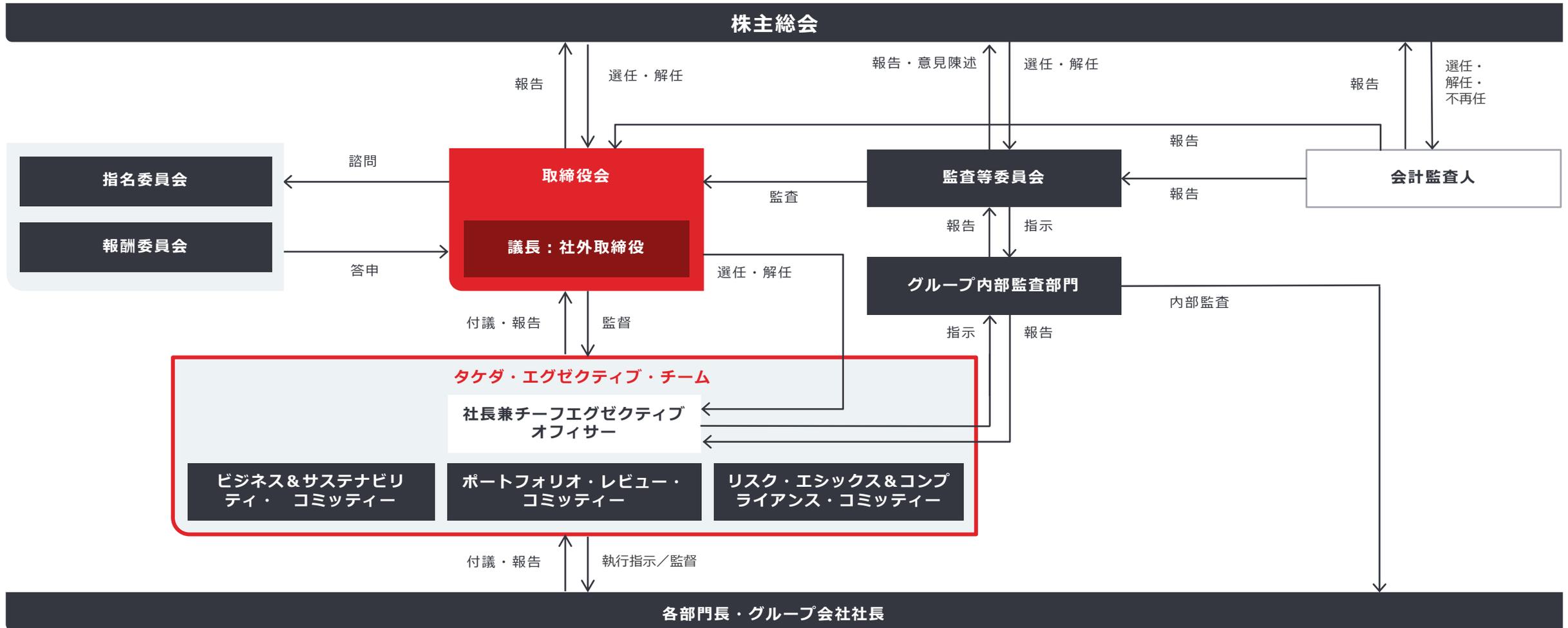
### TAKEDA INITIATIVE 2

母子を対象にHIV・結核・  
マラリアの対策を支援する  
「タケダ・イニシアティブ2」  
を開始

# コーポレート・ガバナンス体制



先進的かつ強固なコーポレートガバナンスモデルは、  
これまでも、これからも、タケダが成功する上で極めて重要です。



# 取締役体制



取締役会は、タケダにおけるすべての意思決定や事業活動が価値観に沿って行われ、ステークホルダーの皆さんに有益であることを審議する責任を担います。取締役15名のうち12名は独立社外取締役で、多様でグローバルな知見をもたらしています。

## 社内取締役



**クリストフ・ウェバー**  
代表取締役社長  
チーフ エグゼクティブ  
オフィサー



**コスタ・サルウコス**  
取締役、チーフ  
フィナンシャル オフィサー



**アンドリュー・ブランブ**  
取締役、リサーチ&  
デベロップメント プレジデント

- CB** 取締役会議長
- NC** 指名委員会<sup>2</sup>
- ASC** 監査等委員会
- CC** 報酬委員会

## 独立社外取締役<sup>1</sup>



**飯島 彰己**  
独立社外取締役  
取締役会議長



**オリビエ・ボユオン**  
独立社外取締役



**ジャン=リュック・ブテル**  
独立社外取締役



**イアン・クラーク**  
独立社外取締役



**スティーブン・ギリス**  
独立社外取締役



**ジョン・マラガノア**  
独立社外取締役



**ミシェル・オーシンガー**  
独立社外取締役



**津坂 美樹**  
独立社外取締役



**初川 浩司**  
独立社外取締役  
監査等委員会委員長



**藤森 義明**  
独立社外取締役



**東 恵美子**  
独立社外取締役  
監査等委員



**キンバリー・リード**  
独立社外取締役  
監査等委員